

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。

- (1) 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
- (2) 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
- (3) 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
- (4) 特別枠入試（「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」）の実施に伴い、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) 生徒に「学ぶことの意味」をていねいに伝えること等を通して「学ぶ意欲」を喚起する。また「主体的・対話的で深い学び」の観点から、基礎・基本の定着、および、自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育成する。

ア 分掌・学年・教科等で連携し、授業見学や研修、授業アンケートの活用等により授業改善を推進する。

イ 生徒に異なる考え方を理解する力を育むという目標を教職員が共有する。その一環として国際理解教育等を推進する。

ウ 基礎・基本の定着のため、授業規律、ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習、家庭学習などについて指導する。

エ 全ての授業において論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。

オ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程を編成・実施するとともに、高い学力の育成のため発展的学習にも力を注ぐ。

カ 英語のコミュニケーション能力、英語の四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上のため、積極的に英語を使う学校づくりの推進とともに、検定試験での資格取得等により英語運用能力の向上を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」の肯定的回答率を毎年2%以上引き上げ、令和5年度に79%をめざす。(H30 57%、R1 74% R2 73%)

(以下「生徒向け学校教育自己診断」は「生徒診断」と表記、%は「肯定的回答率」を示す)

※生徒診断「授業で発表する機会がある」を毎年2%以上引き上げ、令和5年度に74%をめざす。(H30 59%、R1 69% R2 68%)

## 2 キャリア発達の支援

- (1) 生徒が望ましいキャリアの展望を持つために、以下の取組みを推進する。

ア 進路指導部が学年、関係分掌、教科と連携を図り、3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。

イ 地域の専門機関等との連携や「総合的な探究の時間」の活用等により、自らの将来や社会について考え、進路実現に向けて努力する生徒を育成する。

ウ 生徒の主体的な学習のために、自習室の積極的な活用など1年次から自学自習する取組みを推進する。その際、教育産業等の活用を図る。

エ ホームページ等を活用して、進路に関する情報を積極的に発信する。

※生徒診断「進路指導関係4項目」（ガイダンス等・必要な科目選択・知りたい情報・進路や生き方について考える機会）を毎年1%以上引き上げ、令和5年度に86%をめざす。(H30 74%、R1 81% R2 83%)

## 3 生徒の自己効力感と人権意識の向上（「自主自律」や「文武両道」の精神を育成）と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり

- (1) 生徒の自己効力感の育成のために以下の取組みを推進する。

ア 生徒会と学年が連携し、学校行事、学年行事、ホームルーム活動、部活動等を通して達成感を実感させる。

具体的にはクラスづくりや学年づくり、部活動への入部促進、ボランティア活動や地域貢献活動等への参加を推進する。

イ 1年次から行事等を主体的に企画・立案・運営する支援を行い、向上心や協調性、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。

ウ 「あいさつ」「服装・頭髪」「時間管理」等生活習慣の確立とともに、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。

※生徒診断「行事満足度」を毎年4%以上引き上げ、令和5年度に71%をめざす。(H30 71%、R1 79% R2 59%)

※ボランティア活動等への参加者数、延べ500人以上（令和2年度はボランティア活動の機会なし）

- (2) 生徒の人権尊重意識を向上させ、違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、状況に応じた言動ができる力を育成する。

- (3) 誰もが安心して学ぶことのできる学校として、健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。

(いじめ等の防止、薬物乱用の防止、組織的な防災避難訓練)

## 4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力の向上

- (1) 自主的・主体的に物事に取り組む生徒の力を育成するため、以下の取組みを推進する。

ア 学校教育目標の共有とともに、卒業までの3年間を見通した組織的・系統的な教育活動を推進する。

イ 将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で取組みの連携を進めるとともに、取組みを分析・評価し改善につなげる。

- (2) 下記の学校全体の課題に重点的に取り組む。

ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」による入学生徒への指導体制の確立。国際理解・国際交流の取組みの充実

イ 教職員の人権意識の向上をめざす研修の充実とともに、人権侵害事象の未然防止（SNSの適切な使用など）や関係諸機関と連携した指導の充実

ウ 配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導とともに、保護者や関係諸機関等（SCやSSW等）と連携した教育相談体制の確立

エ ホームページ等による教育活動の積極的で迅速な校内外への発信

- (3) 組織的にミドルリーダーや経験の少ない教員の育成に取り組むとともに、教員の自己研さんを進める。

- (4) 良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年実施分]	学校運営協議会からの意見
(選択肢は、1=よくあてはまる、2=ややあてはまる、3=あまりあてはまらない、4=まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答とする)	

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ・「学ぶことの意味」伝えること等を通じた「学ぶ意欲」の喚起 ・「主体的・対話的で深い学び」の観点から、基礎・基本の定着、および、自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力の育成	(1) ア・目標やテーマを設定した授業公開と研修を実施する。 ・授業アンケート結果をもとに「ふり返しシート」の作成等により、ふり返しを行う。 ・アンケート結果等を踏まえた効果的な習熟度別少人数授業を実施する。 イ・生徒に異なる考え方を理解する力を育成する一環として国際理解教育等を推進する。 ウ・授業ごとの目標明示とふり返しにより基礎学力の定着を図る。 ・生徒の困り感等を踏まえた授業の見直し ・授業開始の挨拶や授業準備など授業規律の徹底 ・オリエンテーションや考査返却等においてノートの取り方、話の聴き方、予習・復習や家庭学習について継続的に指導する。 エ・論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。 ・授業改善に向けて ICT 機器等の活用について、情報共有する。 オ・教科会・教科代表者会議等で、進路希望等に 応じた教育課程の編成と実施、評価方法の工夫・改善等について情報共有と検討を行う。 ・関係分掌・学年・教科が連携して、年間を通じた計画的に講習・補習を実施する。 カ・検定試験での資格取得等により英語運用能力の向上を図る。なお、英語以外の検定試験の受検も推進する。	(1) ア・授業公開と研究協議会の実施 (年2回以上) ・生徒診断「教え方に工夫をしている先生」82%以上[80%] ・教員診断「学習指導計画・指導内容について教科で話し合う機会」80%以上[78%] イ・各学年の総合的な探究の時間において国際理解教育等の実施 (年1回以上) ウ・生徒診断「授業満足度」75%以上[73%] ・授業アンケート「必要な予習や復習ができて」「授業中は、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる」 平均値3.3を維持[3.3] エ・生徒診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」70%以上[68%] ・機器活用について情報共有の機会 (年1回以上) オ・生徒診断「自分の進路に必要な科目が選択できた」84%以上[82%] ・四年制大学進学における希望実現85%以上[84%] ・学校幹旋就職100%維持 ・教員診断「学習内容がわからない生徒の補習など適切な指導」90%以上[89%] カ・英語資格検定受験 (150人以上) [63人]	
2 キャリア発達の支援	(1) ・生徒が望ましいキャリアの展望を持つための取組み	(1) ア・組織的・系統的なキャリア教育の推進のため、卒業までの3年間を見通した指導計画を作成する。 ・全学年でスケジュール帳の積極的な活用を推進する。 イ・専門機関等と連携して生徒の進路意識を高める説明会や体験の機会を設定する。 ・「総合的な探究の時間」等において、将来や社会について考え、発表する機会を設ける。 ウ・自習室の積極的な活用を推進する。 ・教育産業の有効活用について検討するとともに、進路指導部が中心となり過去データや教育産業データを有効活用する。 エ・ホームページ、携帯連絡網、懇談等を活用し、進路情報を保護者にていねいに発信する。	(1) ア・生徒診断「進路指導関係項目」85%以上[83%] ・教員診断「教職員全体で進路指導に取り組む体制」65%以上[63%] イ・学年で体験等の機会を確保 (年1回以上) ・各学年で「総合的な探究の時間」等を活用した発表(年1回以上) ウ・生徒実態を踏まえた講習等の実施 ・生徒診断「分からないことが質問しやすい」80%以上[78%] エ・保護者診断「連絡や適切な情報提供を行っている」77%以上[75%]	
3 生徒の自己効力感と人権意識の向上と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり	(1) ・生徒の自己効力感の育成のための取組み推進  (2) ・違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、言動ができる力の育成  (3) ・健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施	(1) ア・生徒会と学年が連携し、学校行事等を通して生徒に達成感を実感させる。 ・入学後の部活動紹介や、新入生の全員仮入部等により部活動加入を促進するとともに、ホームページ等で試合予定等を周知 ・生徒会や部活動等が中心となり、ボランティア活動や地域貢献活動への参加を促進する。 イ・体育祭(応援団)、文化祭指導委員会等において教員が生徒の取組みに積極的に関わる。 ウ・あいさつ運動等、生徒の社会性を育成する組 みを推進する。教員も取組みを支援する。 ・遅刻生徒の実態を踏まえた具体的な指導方法を検討し、学校全体で取り組む。 ・アルバイト等について、生徒状況を踏まえた指導とともに、保護者にも情報を周知する。 ・自らルールとマナーを守る生徒育成のため、教職員が方針を共有し、多様な生徒に配慮しながら、学校全体で指導に取り組む。 ・指導方針をていねいに説明し、生徒・保護者との協力体制を構築する。  (2) ・人権学習、学校行事、国際交流行事、国際理解学習等の機会を通して、違いを認め互いに思いやる心と言動ができる生徒を育成する。 ・クラス、学年活動等を通して多様性を認める集団づくりに取り組む。  (3) ・健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。	(1) ア・生徒診断「学校行事満足度」63%以上[59%] ・生徒診断「部活動満足度」66%以上[64%] ・学期に1回、部活動予定を周知 ・ボランティア活動参加者数500人以上 [ボランティアの機会なし] ・くろーばあ部他でボランティア・地域貢献活動に参加 イ・生徒診断「文化祭・体育祭が楽しく行える」65%以上[61%] ウ・遅刻者総数を年間2000件以下 [3936件] ・教員診断「協力して生徒指導に当たっている」72%以上[70%] ・保護者診断「生徒指導方針に共感できる」78%以上[76%]  (2) ・生徒診断「学校で人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」80%以上[78%]  (3) ・いじめ対策委員会(学期1回) ・薬物乱用防止教室(年1回) ・組織的な防災避難訓練(年1回)	

<p>4 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上</p>	<p>(1) 自主的・主体的に取り組む生徒の育成</p> <p>(2) 学校重点課題</p> <p>(3) 組織的な教員の育成と教員の自己研さん</p> <p>(4) 施設、設備の計画的な改善</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年度当初に全教職員で目標を共有する。その際、3年間を見通すとともに、異なる考え方を理解する力を育成する観点を踏まえる。</p> <p>イ・校内連携の推進のために機器を活用するとともに、会議等における情報共有を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学期末をめどにふり返りを行うとともに、年度末には分析・評価のうえ引継ぎを行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・渡日生の受入れについて、学校全体で組織的な取組みとともに、学外への周知を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタディツアー等の国際交流を推進する。</li> <li>スタディツアー等については新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて計画する。</li> </ul> <p>イ・研修や話し合いの充実により、全教職員の人権についての意識と行動力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員からの働きかけ、生徒の学ぶ機会の充実により、人権尊重の考えや行動ができる生徒を育成する。</li> <li>SNSの適切な使用について学年で生徒向け学習会等を実施する。</li> </ul> <p>ウ・教職員研修等により、教職員が生徒の相談や悩みなどに対応できる力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生活支援カードの活用充実等で配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有</li> <li>生徒の変化に迅速に対応するため、学年と教育相談委員会が協力し、保護者や関係諸機関（SC、SSW、各機関等）との連携を推進</li> </ul> <p>エ・ホームページや学校パンフレット等を活用し、本校の特長について情報発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害等緊急時に備えてホームページや携帯連絡網等の整備を行う。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職、首席、指導教諭等を中心に、教員のニーズや、経験の少ない教員等の育成・指導の観点を踏まえ、研修会等を実施する。</li> <li>会議のペーパーレス化、会議削減に加え、ICT機器活用の推進など、学校全体で業務の見直しを行い、教員の負担軽減に努める。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自主的な清掃活動について、学校全体での取組みに拡大するとともに、全生徒の環境整備についての意識を高める。</li> <li>施設・設備について計画的な改善に努める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・教員診断「教育活動について、教職員で日常的に話し合い」 87%以上[85%]</p> <p>イ・教員診断「分掌や学年等での連携が円滑」76%以上[74%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員診断「評価を行い次年度の計画に活かす」65%以上[59%]</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・学内外の説明会（5回以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>渡日生の情報共有のための学習会等（学期1回以上）</li> </ul> <p>イ・教員診断「人権尊重に関して全教職員で話し合い」 60%以上[52%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒診断「人権や命の大切さについて学ぶ機会」80%以上[78%]</li> <li>生徒診断「SNSを適切に使用」92%以上[91%]</li> <li>保護診断「子どもはSNSを適切に使用」90%以上[87%]</li> </ul> <p>ウ・生徒診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 80%以上[79%]</p> <p>エ・保護者診断「学校のホームページをよく見る」55%以上[50%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者診断「携帯連絡網は役立っている」94%以上[94%]</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を各学期に1回実施</li> <li>運営委員会で年間を通して、業務の見直しを行う。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が中心となり学校内外の清掃活動を実施（学期1回以上）</li> <li>生徒診断「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 70%以上[68%]</li> <li>生徒診断「施設や設備、道具や器具はすぐに修理したり、取り替えてくれる」70%以上[68%]</li> <li>教員診断「教室や廊下等の清掃をはじめ、教育環境の整備に努めている」80%以上[78%]</li> </ul>
---	--	--	---